

【政策テーマ - 4】 安全で安心な暮らしを実現する道づくり

【指標 - 7】道路交通における死傷事故率（現況値：69.8 件/億台キロ H15 年度：68 件/億台キロ H19 年度：63 件/億台キロ）

現状と問題点（1）

近年、交通事故による死者数は暫減傾向であるが、事故件数が急増しており、平成 14 年は 5,719 件と平成 7 年の約 2 倍となっている。

沖縄の死傷事故率の分布を見ると、特定の箇所に集中しており、那覇都市圏で高いことがわかる。那覇都市圏の死傷事故率は 85 件 / 億台キロと全国平均よりは低いものの、北部地域の 2 倍以上となっている。

道路の種別毎に比較すると、沖縄県では、直轄国道の死傷事故率が高く、高速道路ではほとんど事故が発生していない。

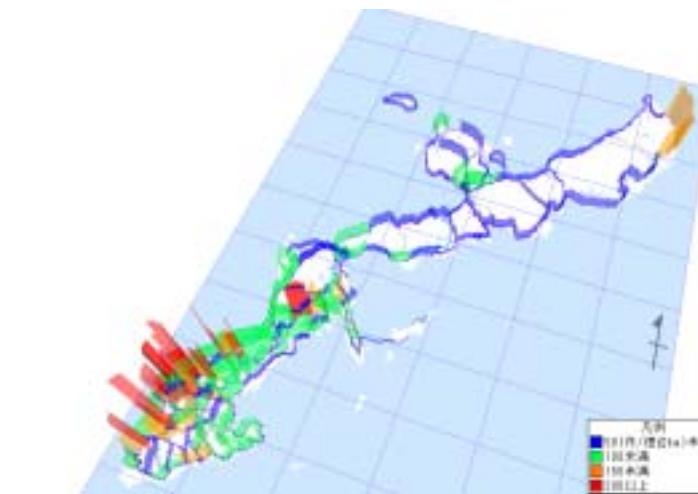


図 死傷事故率 3D マップ (1 km 延長当たり)

出典：交通事故統合データベース (H13)

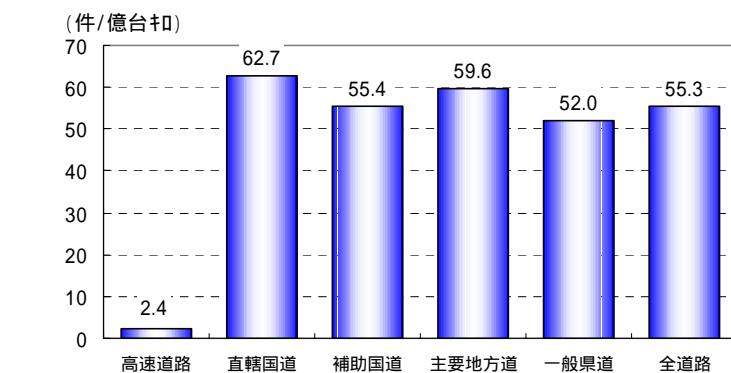


図 道路種類別死傷事故率

出典：交通事故統合データベース (H13)
H11 年道路交通センサス [高速道路のみ]

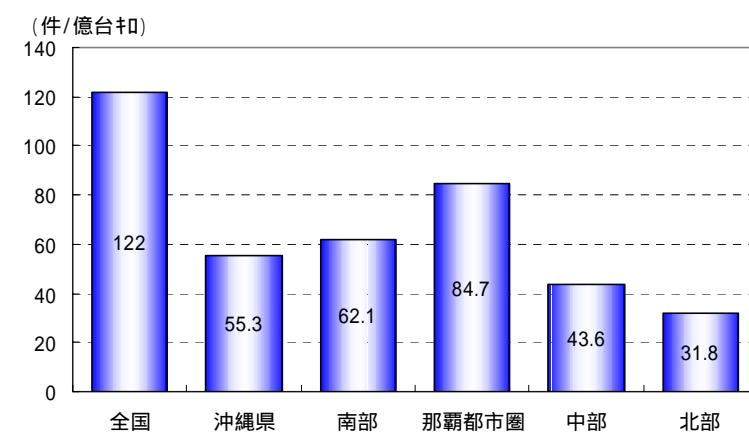


図 地域別死傷事故率

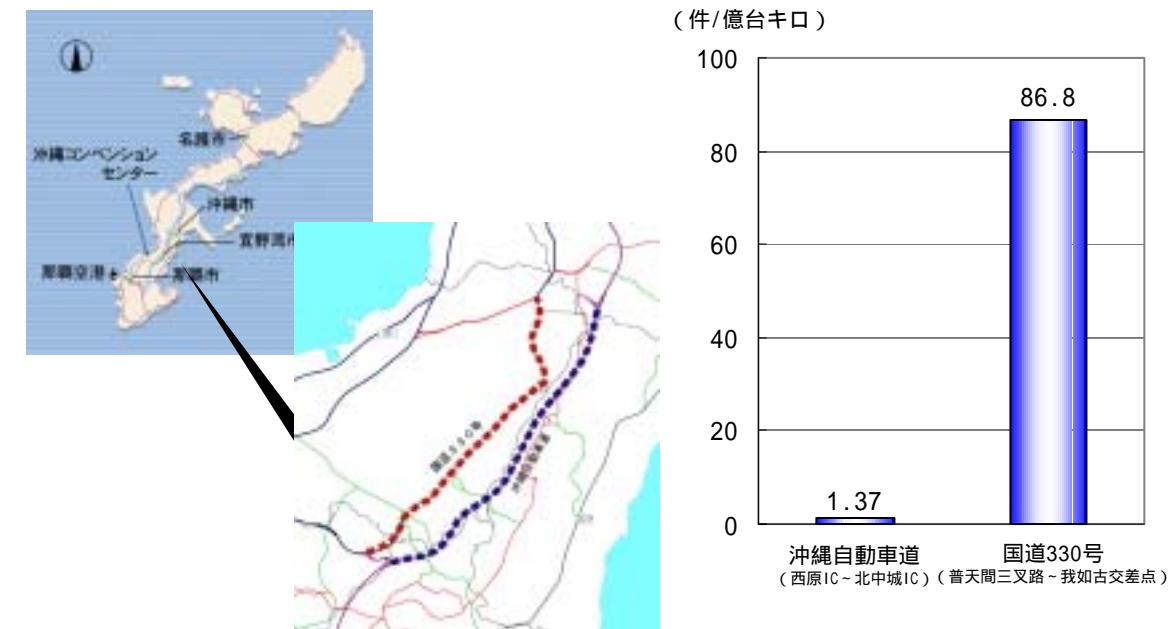
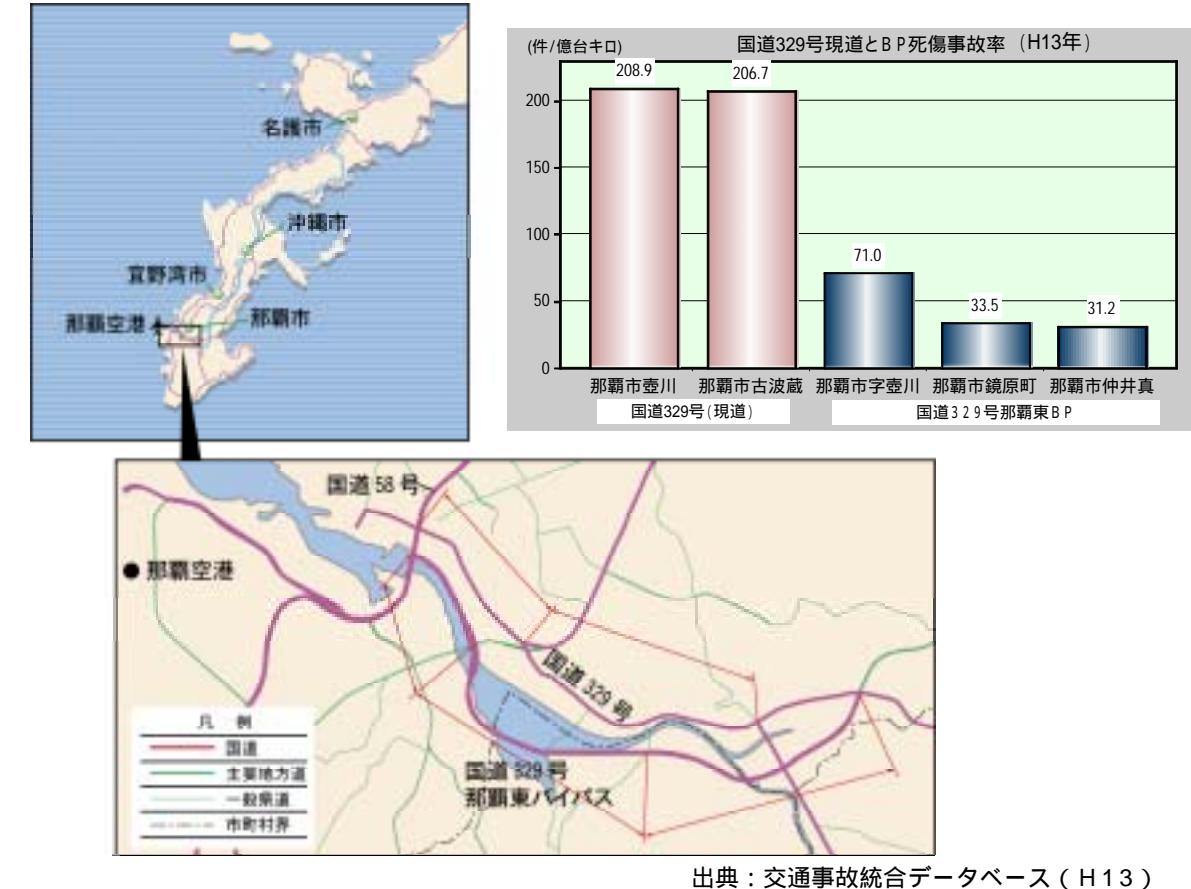
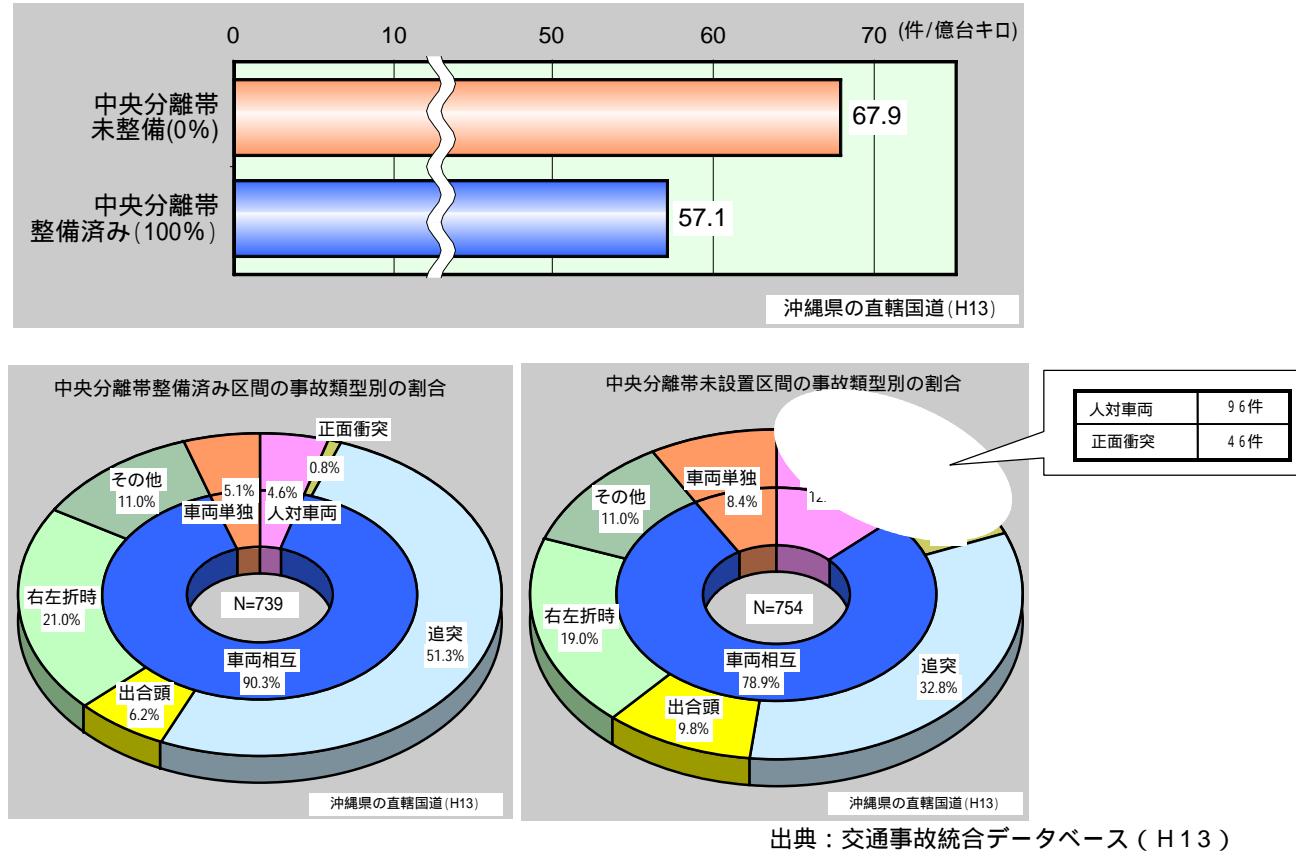
出典：交通事故統合データベース (H13)

現状と問題点（2）

道路構造の面から見ると、中央分離帯が設置されていない箇所の死傷事故率が高いことがわかる。特に中央分離帯が設置されていない場合には、人対車両が約13%、正面衝突が約6%と、この2つの類型の占める割合が約4倍に増加する。

国道329号那覇東バイパス（中央分離帯あり）は、現道（中央分離帯なし）に比べて死傷事故率が低いことがわかる。このため、死傷事故率の低減のためには、幹線道路の整備が必要である。

自動車専用道路（沖縄自動車道）は、一般道（国道330号（中央分離帯なし））に比べて大幅に死傷事故率が低いことがわかる。このため、死傷事故率の低減のためには、中央分離帯の設置された自動車専用道路の分担率を上げることが必要である。



講じる施策や事業

関連する施策・事業	平成 15 年度主要事業・施策	平成 15 年度供用予定箇所
幹線道路ネットワークの体系的な整備による安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港自動車道（豊見城 IC ~ 那覇空港南 IC (仮称)） ・一般国道 58 号沖縄西海岸道路（那覇西道路） 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般国道 329 号石川バイパス（4 車線化）
交通安全施設等の整備(歩道整備等)	<ul style="list-style-type: none"> ・国道 331 号知念村安座間地内(歩道未設置) 	<ul style="list-style-type: none"> ・同左(完成・供用)

事故危険箇所での集中的対策

全国的に幹線道路のわずか 6 %の区間に幹線道路で発生した事故の 53 %が集中している等、幹線道路の事故は特定箇所に集中していることなどから、効率的かつ効果的に対策を実施するため、特に事故の危険性が高い箇所を事故危険箇所として指定し、公安委員会と連携して交差点改良等の事故抑止対策を集中的に実施する。事故危険箇所は、死傷事故率が幹線道路平均の 5 倍以上の箇所、事故が多発しており 10 年に 1 度以上の確率で死亡事故が発生するおそれの高い箇所などを平成 15 年 7 月に 9 力所抽出した。

表 沖縄県における事故危険箇所

道路種別	路線名	箇 所 名	単路	交差点	死傷事故件数 (H11~H14)	死亡事故件数 (H11~H14)
一般国道	58 号	那覇市前島 2 丁目 20 番(泊港務所交差点)			28	1
一般国道	58 号	北谷町字浜川 46 番地(国体道路入口交差点)			45	0
一般国道	58 号	読谷村字親志親志原 152-1 ~ 読谷村字喜名外部原 1801-1			36	3
一般国道	58 号	読谷村字喜名前原 555 ~ 読谷村字伊良皆伊良皆原 33-1			27	4
一般国道	58 号	読谷村字伊良皆前原 1779-1 ~ 読谷村字大湾東原 55-1			33	3
一般国道	58 号	宜野湾市字地泊 558-9 ~ 浦添市牧港 5 丁目 941-21			15	2
一般県道	32 号線	宜野湾市長田 1 丁目 ~ 中城村南上原			12	1
主要地方道(県道)	那覇北中城線	那覇市首里石嶺町 2 丁目 265 番 1 号 ~ 那覇市首里石嶺町 2 丁目 193 番 22 号			13	1
主要地方道(県道)	那覇北中城線	那覇市首里石嶺町 2 丁目 193 番 22 号 ~ 那覇市首里石嶺町 2 丁目 148 番 1 号			10	1
小計(箇所)			7	2	219	
合計(箇所)			9		16	

「事故危険箇所」の抽出基準、時期などの関係により那覇市前島のみ H 8 ~ H 11 のデータである。

(1) 交差点における対策

公安委員会の実施する信号機の改良と併せて、交差点規模の縮小等交差点の改良や交差点に集中している道路標識の可変化等の簡素・合理化を図るほか、道路標示の高輝度化等を推進する。



図 交差点における事故危険箇所対策イメージ

(2) 単路部における対策

公安委員会の実施する交通規制の見直し等と併せて、道路標識・道路標示等の視認性の向上、防護柵、道路照明、視線誘導標の設置等の対策を推進する。

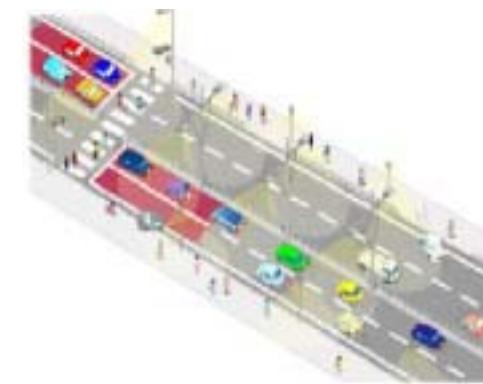


図 単路部における事故危険箇所対策イメージ

なお、上記 、 については「沖縄県道路交通環境安全推進連絡会議」において、今年度の具体的な対策を検討していくこととしている。

あんしん歩行エリアの整備（面的・総合的な歩行者事故防止対策）

市街地内の事故発生割合の高い地区において、歩行者等の通行経路の安全性が、歩行者等を優先する道路構造等によって確保されたあんしん歩行エリアの整備を推進する。あんしん歩行エリアについては、面的な対策を実施することから、単位面積あたりの事故発生件数が多い地区を抽出することとし、平成15年7月に9地区を指定した。

表 沖縄県におけるあんしん歩行エリア

市町村名	地区名	死傷事故件数 (H11~H13)	死亡事故件数 (H11~H13)
那覇市	金城	171	0
那覇市	国際通り南	203	1
那覇市	若狭	293	2
那覇市	那覇新都心	256	3
浦添市	仲西	266	3
浦添市	伊祖	271	3
宜野湾市	普天間	173	0
北谷町	美浜	186	4
北谷町	砂辺	153	2
合計(箇所)		9	1,972
			18

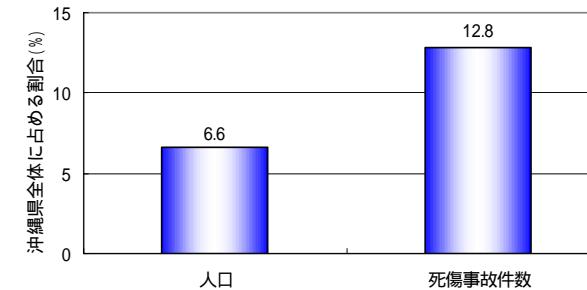


図 あんしん歩行エリア指定地区

あんしん歩行エリアにおいては、公安委員会と連携し、交差点の改良、信号機の高度化・改良等により、外周幹線道路の通行を円滑化しエリア内の通過車両を抑制する「外周道路対策」、速度規制を行う他、ハンプ、クランク等車両速度を抑制する道路構造等により歩行者や自転車の通行を優先するゾーンを形成する「ゾーン対策」、歩道の整備、歩行空間のバリアフリー化等により安心して移動できる歩行空間ネットワークを整備する。

なお、あんしん歩行エリアの対策は「沖縄県あんしん歩行エリア推進連絡会議」において、具体的な対策を検討していくこととしている。



図 あんしん歩行エリアの概要

沖縄県におけるあんしん歩行エリア、事故危険箇所

